

令和4年度 第2回 見附市まちづくり総合会議 議事概要

I. 開催日時 令和5年1月31日（火）午後2時00分～午後3時35分

II. 開催場所 見附市役所4階 大会議室

III. 出席委員 渡邊 誠介委員、坂田 政元委員、三藤 良行委員、八子 円委員、
西脇 一樹委員、藤嶋 弘美委員、三本由美子委員、大湊 和之委員、
五十嵐一美委員、重信 元子委員（計10名）

IV. 会議の概要

1. 開会

2. 企画調整課長挨拶（代読）

本日は道足の悪い中、また皆様ご多忙のところ会議にご出席いただき、大変ありがとうございます。

この「まちづくり総合会議」は、産・官・学・金・市民などの各界の方々から参加いただき、市の最上位計画である「第5次見附市総合計画」をはじめ「第2期見附市総合戦略」、「地方創生推進交付金」、「健幸づくり推進計画」、「SDGs未来都市計画」の進捗状況について評価、検証するため、例年2回開催している。市の施策を進める上で大変重要な役割を担う会議でございますので慎重審議をお願いしたい。

3. 会長挨拶

本会は見附市の計画が予定通り進捗しているかを確認する場となる。その点を踏まえて、是非見附市を良くするための質問、意見を積極的をお願いしたい。

4. 委員紹介

【事務局】

委員名簿の配付および事務局の説明により省略。事務局から欠席委員を報告。

5. 会議の成立

【事務局】

出欠報告委員の過半数が出席していることから、見附市まちづくり総合会議設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。

6. 議事

(設置要綱第6条第1項に基づき、議事進行は渡邊会長へ)

(1) 第5次見附市総合計画の進捗状況について

【事務局】

①(資料1-1)人口ビジョンの達成状況、人口動態の分析結果について説明

【渡邊会長】

事務局の説明に対して、質問や意見があればお願いしたい。

【三藤委員】

資料1-1「2.(2)年代別の人口減少の抑制」について、①の20歳代の職業理由による転出が▲109人とあるが転出先は県内の他市町村なのか、県外への転出なのか。

【事務局】

109人は県外転出が多い。

【大湊委員】

資料1-1「2.(2)年代別の人口減少の抑制」について、20歳代、30歳代の社会動態の理由別に「住宅理由」とあるが、具体的にどのような場合が住宅理由となるのか説明頂きたい。

【事務局】

住宅を建築・取得した先に転入・転出するということ。

【重信委員】

転出と転入の男女別の数はわかるか。

【事務局】

男女別の差引の数になるが、県内では男性の社会動態が+13、女性が▲15名、全体は▲2名となる。県外の男性が▲52、女性が▲95。合計で▲147という結果となっている。

※下線箇所について数値報告の誤りがあったため、本議事録を以って修正報告といたします。

【渡邊会長】

見附市は住宅を建てるにあたり非常に好立地であり、比較的安価に建築できるという点から転入者も多かった。大型の住宅地造成が終わり、転入スピードが落ちているところで、転出のトレンドが止まらないという分析と思う。

【事務局】

そのような状況となる。

【事務局】

②（資料1－2）まちづくり市民アンケート結果（概要版）について説明

【渡邊会長】

事務局の説明に対して、質問や意見があればお願いしたい。

【三藤委員】

資料1－2「2. 見附は住みよいまちですか」、「3. 見附市は10年前と比べて魅力あるまちになってきたと思いますか」の結果について、ここ3か年の新型コロナウイルスの影響についてはどのように考えるか。

【事務局】

「2」および「3」の結果に直接つながるものではないが、今回「新型コロナウイルス感染症の影響によって、生活にどのような変化がありましたか」という設問もあり、その中で、コロナ禍において行動変化の増減を選択し回答いただいた。

増えた行動としては、「インターネットを利用した買い物」や「お弁当などのテイクアウト・デリバリーの利用」、「SNSの利用」「テレワーク・WEB会議」、「自宅での飲酒」などが挙げられた。減った行動においては、「店舗での買い物」や「外食」、「友人・知人との会話」が挙げられた。

【八子委員】

資料1－2「4. 各項目について、現在どの程度満足していますか」の結果において、「地震や風水害などに対する防災対策」が向上している。今年度、県と見附市とで合同実施した避難訓練では、防災担当と介護担当、消防本部、地域住民も一体となって避難訓練が行えた。地域でできることは何かということを考え、一生懸命取り組まれていた。引き続き一緒に取り組みを進めさせていただきたいと思っている。

【坂田委員】

資料1－2「4. 各項目について、現在どの程度満足していますか」の項目別結果において、赤枠の増加、青枠の減少の影響要因はどのように考えているか。

【事務局】

「道路や橋などの充実」の満足度が上がった点は、昨年開通した瑞祥橋の整備・開通により、歩道が整備され、道路の整備水準が上がったことが満足度の引き上げにつながったものと推測している。

「地震や風水害などに対する防災対策」については、防災訓練を毎年1万人規模で市民参加・協力のもと継続できており、市民の間でも取り組みが浸透してきているところではないかと考える。

また、減少の変化が大きい「道路除雪や消雪パイプの充実」については、アンケートの自由記述において、雪道での歩道の整備ができてない、歩道除雪が実施できておらず歩行者と車道の分離が未徹底という意見が一部見られた。こうした点が影響したと考える。

【三藤委員】

資料1-2「2. 見附市は住みよいまちですか」、「3. 見附市は10年前と比べて魅力あるまちになってきたと思いますか」の結果について、住みよいかという問いについて否定的な意見であるのは20歳代から40歳代の若年層。しかし、その世代は魅力あるまちにはなっていると回答をしている。

この結果から、見附市は実際に生活する場所としては良いが、若い人たちが楽しめる場所、遊び場所が地元が無いということが結果として表れているのではないかと分析する。市の見解はどうか。

また、開業から1年程度になるが上新田地区に「ルートインホテル」が243室の規模で開業した。開業にあたり何か良い影響などはでているか。

【事務局】

自由記述の中で「子供を連れて出かけるレクリエーション施設が足りない」と言った意見が寄せられている。

ルートインについては、市内での新たな雇用の創出という点で力を発揮していると考えている。

【三藤委員】

ルートインホテルについては、事業を実施するにあたり取引する企業を基本的に見附市内の事業者へお願いしたい意向と伺っている。新潟県内のルートインホテルの中でも新しくオープンしたという効果もあり、稼働率も最も良い数字が出ていると聞いている。

宿泊客の方から市内の飲食店マップを求められた際に現在提供できるものがないとのこと。市と協力して提供できるものを作りたいという意向を持たれている。

【渡邊会長】

市と連携をとる方向で検討をお願いしたい。

【事務局】

承知した。

(2) 第2期総合戦略(R3年～R7年)の指標見直しについて

【事務局】

(資料2) について説明

【渡邊会長】

事務局の説明に対して、質問や意見があればお願いしたい。

【三藤委員】

「家庭や事業所でできる温暖化地球温暖化対策を支援する」とあるが、具体的に何をすることでCO2の排出量を家庭単位で減らすことができるのか、いくつか明示して欲しい。

【事務局】

具体的な市の取組みとしては、省エネに対する補助制度を設けている。家庭向けの支援としては、太陽光発電システム・太陽熱利用システム導入への補助、エネファームシステムの購入補助制度などがあり引き続き継続していく予定。

事業所については、事業者の皆様も参加いただいている「エコアクションみつけ」による連携を通じて、排出量削減の啓発に努めていく。

【三藤委員】

ソーラーパネルの設置について、事業者が倉庫や工場等の面積が広い太陽光パネルでの発電した電力を、通常の2～3割増の価格で買い取るという施策の報道が出ている。事業所の地球温暖化対策として取り組めるものとする。市として、今後こうした事業所向けの支援予定はあるか。

【事務局】

国もGXなど環境対策の取組み強化が必要と考えているため、こうした最新の動きに対応できるよう努めていく。頂戴したご意見を担当課とも共有していく。

(3) 健幸づくり推進計画の進捗状況と評価について

【事務局】

(資料3-1、3-2、3-3) について説明

【渡邊会長】

事務局の説明に対して、質問や意見があればお願いしたい。

【三藤委員】

資料3-2 項番27「自殺者の減少」について、令和3年度の実績が「18」となり減少目標を達成しているが、引き続き目標値は「22.9」のままとなるのか。

【事務局】

計画策定当初の数値となる。おそらく国の指標を参照している。

【八子委員】

国の指標に基づいて目標設定されているものと思う。本数値は市の規模が大きくない場合に1年毎の数値の上がり下がりが大きくなる。上がり下がりしながらも着実に下がるよう努めていく必要がある。

自殺対策において、見附市は条例を定めて、保健分野と消防が情報連携し自殺未遂者の再発防止に向けた取り組みを進めていると伺った。専門家からも全国的にも貴重且つ先進的な取り組みと評価されていた。引き続き継続してもらいたい。

また、コロナ禍において、女性の自殺が増えている。新潟県においては、高齢女性の自殺が多く、県としても対策が必要と考えている。1月から新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付の返済が始まる。市町村民税の課税世帯は返済が始まり、働き盛りの方の困窮が再度課題となると思われる。

産業分野、金融分野の委員の皆さんにもご協力いただきながら、地域での対策をお願いしたい。

【重信委員】

資料3-2項番18の「食育の推進に関するボランティア数」について、人数も増えており素晴らしいことと思う。一方、ボランティア数が増えている中で、「12. ほぼ毎食、主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合」や「13. ごはんを中心とした日本型食生活につとめている人の割合」が令和2年結果では下がっている。項番1~5「適正体重を維持している人の割合」も全体的に数値があまり芳しくない。この食育ボランティアとはどのような方々を指すのか。

【事務局】

ボランティアの数については、見附市保健推進協議会の保健委員のほか、子供食堂に関わっている方々となる。

近年伸び悩んでいたボランティア数であったが、子供食堂が2カ所開設されて、それに関わる皆さんが増えたことが数字向上につながっている。

また、項番12の「主食・主菜・副菜」といった日本型食生活の割合が伸び悩んでいる点は、市としても課題と認識している。市民の方とお話する中で、この言葉自体がわかりづらいのではないかという意見もある。「日本型食生活＝和食」ではないので、より趣旨を分かりやすく説明する場面を食育や調理の場などで進め、理解の促進に努める。

【三本委員】

見附市保健推進協議会は高齢者の方を元気にするための食育の研究や、指導の補佐などを実施するために設立された経緯がある。最近では企業や学校、保育所などに入り、朝食を食べない子供への対応や企業向けに健康な食事を摂ってもらうための助言などを進めてきた。しかし、コロナ

禍に入り、企業や教育機関にもなかなか足を運ぶことができなくなってしまった。昨年から少しずつ、大企業での研修会要望なども出てきており活動できるようになっている。

項番27「自殺者の減少」について、見附市は県下でもっとも自殺者が多い年度もあったと聞いたが、こうした状況を分からない方も多い。今後自殺者を減らして行くためにも、地域で協力し対策を考えていくことが必要と思う。

7. 報告

(1)見附市SDGs未来都市計画の実績報告について

【事務局】

(資料4) について説明

【渡邊会長】

事務局の説明に対して、質問があればお願いしたい。

【渡邊会長】

(資料4) 「令和4年度の取組」③にある高校生が企画・実施した文化祭について、コロナ禍で文化祭などができない、やりたいという高校生の声を反映したということを知った。こうした声を応援してくれた行政の取り組みは評価できると感じた。

【五十嵐委員】

自身の子供もその文化祭のチラシを持って帰ってきていた。良い取り組みと感じていたため、その報告が聞けてとても良かった。

【坂田委員】

見附高校の評議員会に参加した際に、見附高校の生徒の4割が長岡地区から通っており、見附の生徒は3割しかいないと報告を受けた。そのため、見附のまちなかに若者が入ってくる機会が少ない。

昨年ネーブルみつけで華道部が花を活けて非常に喜んでいただけだったが、その他文化部も多くあるなかで発表する場がなかなかない状況でもある。

市としてこうした場を提供してもらい、市内外問わず生徒が見附市民と交流ができる場や機会を与えてあげてほしい。

8. その他意見

【藤嶋委員】

人口動態の報告において、やはり見附市で働くということが若い人たちにとっては難しいのだと感じた。どうしても新潟市や長岡となる。

高校を卒業し、大学進学した子供たちがこちらに帰ってきやすく、仕事ができることが人口増にむけて大事な点と考える。

また、女性と一緒に仕事をしている中で、子育てと仕事の両立も重要と思う。

その点がうまく進めば二人目、三人目の出産に繋がる。三人目を出産される方がこのところ増えてきており、四人目の出産のお話も伺った。そうした中で仕事にまた戻ってこれるような環境づくりができると良い。

【渡邊会長】

その他意見が無いようなので、これにて各議事を終了とする。

(以降の進行は事務局による。)

9. 閉会

【事務局】

当年度の会議の予定は、本日の会議が最後となる。次期令和5年度は、当年度同様、2回の開催を予定。開催日程が決まり次第、改めてお知らせする。

また、現委員の任期については、次期令和5年度末までとなる。任期中に異動などが生じた際は、事務局までご一報願いたい。

以上